

平成13年度岡山市総合政策審議会都市・交通部会（第8回）の主な意見

1 日 時 平成14年3月18日（月）午後1時30分～3時32分

2 場 所 ほっとプラザ大供3階第3研修室

3 出席者 委員13名中12名出席

（佐々木委員欠席）

岡山市：山内都市整備局長、広瀬まちづくり担当局長、高橋局次長、

池上都市開発部長、青木公園緑地部長、小寺土木部長、

青山西部新拠点まちづくり推進本部長 ほか

事務局：高橋参事 ほか

4 傍聴者 なし

5 会議概要

（1）傍聴の許可

（2）議題の説明、質疑応答及び事務連絡

6 主な意見

岡山市駐車場及び自転車等駐車場整備計画について

- 従来は駐車場等と住居は別物であるという見方が支配的であったが、例えばマンションの1階部分に駐車場等を作るなどして、自分たちのものは自分たちで処理しようという発想がなされれば、結果的に道路も有効に使えるようになってくるのではないか。ただし、岡山駅前や表町などは道路上に自転車を置いてもよいのではないかと思う。いろいろな形で実験を行って一番よいものを採用していくということが必要ではないか。
- 表町商店街を横切る車道（あくら通り）は2車線のうち1車線が荷さばき用の駐車により、車の流れが悪くなっている。商店街に附属するような荷さばき場が整備されれば、2車線がそのまま使え、横断する歩行者の信号待ち時間の短縮につながり、商店街を分断しているような状態の解消につながるのではないか。
- 短期的な課題として、現状の道路幅の中で切り込みを入れるなどして、荷さばきのスペースを確保する方法を検討できないか。
- 自転車の問題は、自転車道が無いことと置く場所が足りないことが根本的な問題である。時間はかかるだろうが、そういうものを積極的に整備していかないとこの問題は解決しない。
- 駅前の地下駐輪場などを高齢者などにも利用しやすいものにしてほしい。また、利用がしやすいということのPRも必要ではないか。
- 放置自転車が相当多い中、本当に使用されている台数の割り出しをしないと、全体の交通手段の中で自転車にどういう役目を負わせるかというシミュレーションができないのではないか。
- 自転車の通行帯や駐輪場にコストをかけていくのであれば、受益者負担が基本となるのではないか。自動車同様に自転車も所有者をきちんとさせ、税負担など応分の負担もして大事に乗っていくということをしていかないと、自転車の問題は解決しないのではない

いか。

- 駐車場については整備の問題よりは効率的運用の問題であり、いかに経営的に管理をしていくかという時代になっていく。日曜日だけ人が詰めかけてくるような場所に駐車場を作ることは国民経済的にみると非効率ということにもなる。例えば駐車場が不足している1kmスクエアなどで、日曜日の駐車場利用には税をかけるなどして、公共交通の利用を促していくというように、税制の運用面からも駐車場問題に取り組んでいくなどして産業の規制をやっていかないとこの問題はなかなか解決しないのではないか。
- 現実にどこにでも放置された自動車や自転車があってゴミになっているのだから、ゴミとしての対応も行政として横断的に考えていく必要があるのではないか。
- 自転車の購入時に税をかけ所有者登録も義務づけるようにしたらどうか。また、自転車にも強制保険をかけるようにし賠償に備えさせるほうがよいのではないか。

「中期的な指針」について（部会報告書について）

- 市外転出者については、数でみれば悲観的に記述するには及ばないのではないか。転出先をも分析し表現を工夫して欲しい。
- 現在は市外転出者数が多くはないとしても、近い将来の問題を憂慮した記述表現であるならば、部会の意見としてはシビアな表現でも構わない。
- 「烏城」という呼び方は県外から来る学生などには馴染みが薄く、正式名である「岡山城」と記すほうがよい。
- 中心市街地は古い歴史をもつ城下町の中心であったことから、岡山城のみならず城下町とのかかわりの中でまちづくりに活用しうる策を検討して欲しい。
- 「報告にあたって」の問題提起の中に、具体的な問題をちりばめることにより、後の文章に読みやすさが生まれてくるのではないか。